

要配慮者利用施設における効果的な 避難訓練の取組事例集

**国土交通省 水管理・国土保全局
河川環境課 水防企画室**

令和8年 3月

はじめに P.3

避難訓練の実施に向けた事例 P.4

 避難訓練実施に向けた課題の整理 P.5

 課題①：他の災害では実施した（津波は未実施） P.6

 課題②：業務時間内に行うのが難しい P.10

 課題③：スタッフの人手不足 P.15

 課題④：訓練の方法がわからない P.18

 課題⑤：訓練の必要性を認識していなかった P.20

避難の実効性を確保するための事例 P.22

令和7年7月30日カムチャツカ半島付近の地震による
津波に対する実際の避難について P.33

目的

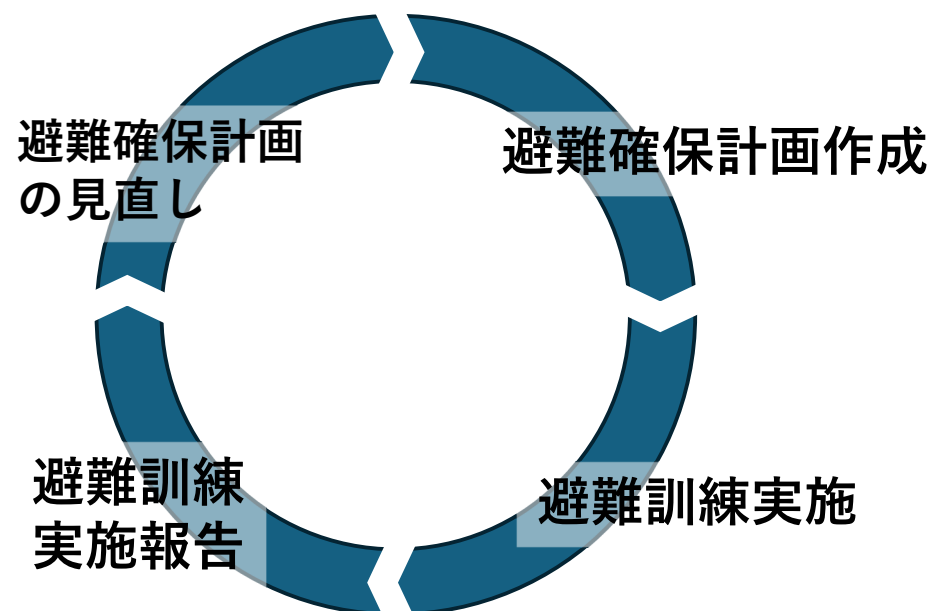
本事例集は、要配慮者利用施設において、「時間がない」「人手が足りない」等の様々な理由により避難訓練ができていない施設においても避難訓練を実施してみようと思えるような取組事例や、避難訓練を実施している施設においては、より実効性が高まるような取組事例を収集し、避難訓練実施率の向上や避難訓練の質の向上を目的として、このたび事例集としてとりまとめたものです。

また、事例集の中で紹介している事例の効果を確認するため、令和7年7月のカムチャツカ半島付近の地震による津波への対応状況についても紹介しています。

ぜひ、本事例集を要配慮者利用施設への助言ツールの1つとしてご活用いただければ幸いです。

※本事例集で紹介している事例は、各施設管理者に掲載の許可を得たうえで、ご紹介しています。

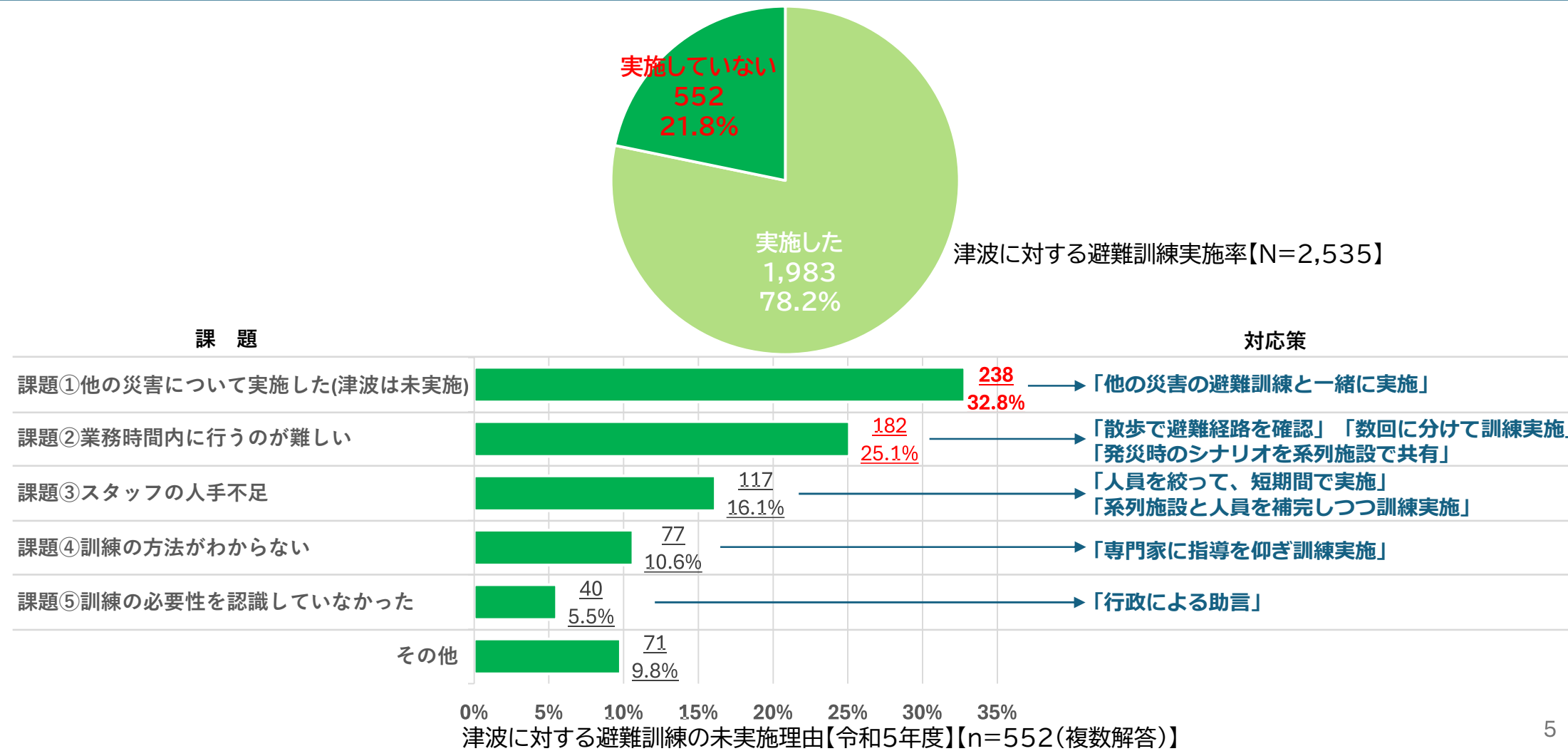
避難訓練の実施と改善のサイクル



避難訓練の実施に向けた事例

避難訓練実施に向けた課題の整理

- ・令和6年度に実施した、「要配慮者利用施設における津波に対する避難等に係る実態調査」の回答から、「令和5年度(令和5年4月～令和6年3月)に津波に対する避難訓練を実施していない理由」について課題を整理しました。
- ・津波に対する避難訓練を実施していない施設は21.8%あり、その理由としては、「他の災害について実施した」や「業務時間内に行うのが難しい」、「スタッフの人手不足」等であり、これらの課題に対応するための、事例を収集しました。
- ・津波だけでなく、洪水等他の災害にも応用・横展開出来るような、汎用性のある事例を収集しています。



課題①：他の災害では実施した（津波は未実施）

効果的な対応策

- ・地震と津波の訓練を同時に実施
- ・火災と津波の訓練を同日に実施

徳島県徳島市 徳島文理小学校

施設区分
学校

利用者人数
約300人

津波基準水位
2～3m

津波到達時間
30～60分

施設利用者
小学生

避難に
要する時間
10分以内

地震と津波の訓練を同時に行うことで、訓練を合理的に実施できます！
地震後に襲来する津波を想定した訓練ができます。

訓練では、地震発生後に校舎外へ一次避難し、津波が到達する想定時間内に校舎内の津波基準水位以上にある4階以上へ二次避難しています。



訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	徳島文理小学校				
実施日時	2024年 5月 25日 9時 50分 から 10時 35分 まで				
実施場所	徳島文理小学校敷地内 校舎、運動場、駐車場				
想定災害 (該当する□にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震) 地震訓練と同時に実施				
訓練種類・内容 (該当する□にチェックをする。)	☐ 図上訓練		☐ 情報伝達訓練		
	☒ 避難経路の確認訓練		☒ 立退き避難訓練		
	☒ 垂直避難訓練		☐ 持ち出し品の確認訓練		
	☒ その他 (<u>保護者への児童引き渡し訓練も実施</u>) (訓練内容を適時自由記載) (地震発生(想定)) (教室内) 机下への避難→防災ヘルメット着訓練 (校舎外) 校舎外へ避難→駐車場へ一次避難し、全員の安全状況の確認 (津波発生(想定)) <u>校舎内4階へ二次避難することの確認と避難経路の確認</u> 二段階避難				
訓練参加者 ・参加人数	教職員 (全員・一部)		25名		
	児童・生徒等 (全員・一部)		300名		
	その他訓練参加者：保護者等		245名		
	地域住民等		名		
	その他 ()		名		
訓練実施責任者	職	氏名 ●● ●●			
確認事項	☐ 避難支援に要した人数		15名	☐ 避難に要した時間	時間 7分
	☐ 避難先や避難経路の安全性		安全性は確保されていると考える		
	その他				
訓練によって確認された課題とその改善方法等	授業時間外に地震が発生した場合の対応 工夫 【改善方法】・決められた時間に行う訓練とは別に、 <u>抜き打ちの訓練</u> を行う。 ・構内の様々な状況に合わせて、緊急時にはどのように対応していけばよいのか常時指導の中で考えさせておく。				
	訓練記録作成者	職	氏名 ●● ●●		

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

効果的な対応策：地震と津波の訓練を同時に実施！

高知県高知市 高知市立潮江南小学校

地震と津波の訓練を同時に行うことで、訓練を合理的に実施できます！
津波に対する危機感から、本校では避難目標時間を短く設定しています。設定した目標時間をもとに、避難の方法は地震発生、シェイクアウト、垂直避難としています。

訓練は、休み時間等で児童がバラバラな状況でもすぐ校舎屋上へ避難できることを目標に、難易度を変えながら年間に複数回実施しています。



教頭



避難階段

- シナリオ1：クラス単位で授業中実施
↓ ステップアップ
シナリオ2：一年生～六年生で組んで掃除を行っている時間に実施
↓ ステップアップ
シナリオ3：昼休み等に予告なしで実施
最終目標：児童一人ひとりが自身で判断して避難ができる

避難訓練の年間シナリオ

施設区分
学校

利用者人数
150～299人

津波基準水位
3～4m

津波到達時間
30～60分

施設利用者
小学生

避難に
要する時間
20分以内

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	高知市立潮江南小学校		
実施日時	2025年 9月 2日 9時 50分 から 10時 30分 まで		
実施場所	高知市立潮江南小学校 北舎屋上		
想定災害 (該当する□にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)		
訓練種類・内容 (該当する□にチェックをする。)	☐ 図上訓練	☒ 情報伝達訓練	
	☒ 避難経路の確認訓練	☐ 立退き避難訓練	
	☒ 垂直避難訓練	☒ 持ち出し品の確認訓練	
	☐ その他 ()		
	(訓練内容を適時自由記載) 地震・津波を想定した、北舎屋上への避難訓練。 廊下の本棚の固定や設置箇所の変更。		
訓練参加者 ・ 参加人数	教職員 (全員・一部)	25名	
	児童・生徒等 (全員・一部)	245名	
	その他訓練参加者：保護者等	名	
	地域住民等	名	
	その他 ()	名	
訓練実施責任者	職	氏名 ●● ●●	
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	名	☐ 避難に要した時間
	☐ 避難先や避難経路の安全性		
	その他		
訓練によって確認された課題とその改善方法等	今回行った避難訓練は年間3回行う訓練の2回目の訓練であった。掃除の時間に実施したが、慌てることなく一年生から六年生まで一人ひとりが自身で考え行動できるようになってきている。		
訓練記録作成者	職	氏名 ●● ●●	

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

効果的な対応策：火災と津波の訓練を同日に実施！

高知県高知市 悠仁会 高橋病院

施設区分
医療施設

利用者人数
20～49人

津波基準水位
2～3m

津波到達時間
30～60分

施設利用者
患者
(高齢者)

避難に
要する時間
30分以内

自衛消防訓練の際に、津波災害時の避難経路を確認します。
また、避難訓練の研修資料をクラウドにアップロードし、
いつでも避難経路を確認できるようにしています。
身体の不自由な入院患者が多く、入院病床を津波基準水位
以上の3～4階とすることで、避難の必要がない環境を整
えています。



3,4階以上が入院病床

津波基準水位2.1m

施設で働くドクター



避難訓練状況



避難訓練状況

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	医療法人悠仁会 高橋病院		
実施日時	2025 年 1 月 7 日 13 時 30 分 から 14 時 00 分 まで		
実施場所	当院内（1F～4F）		
想定災害 （該当する□にチェックをする。）	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害（ 火災 ）		
訓練種類・内容 （該当する□にチェックをする。）	☐ 図上訓練	☒ 情報伝達訓練	
	☒ 避難経路の確認訓練	☐ 水平避難（立退き避難）訓練	
	☒ 垂直避難訓練	☒ 持ち出し品の確認訓練	
	☒ その他（ シェイクアウト訓練 ）		
	（訓練内容を適時自由記載） 津波・高潮・洪水が来る事を想定し、図上訓練を実施。 想定：地震発生後、各部署職員は電話又はライン（SNS ツール）を使用して管理者へ報告し高所へ避難を開始した。その後、管理者はラインを使用し内田病院管理者グループラインにて現状報告を行った。		
訓練参加者 ・参加人数	職員（ <u>全員</u> ・一部）	15 名	
	患者等（全員・一部）	名	
	その他訓練参加者：消防団等	名	
	地域の協力者	名	
	その他	名	
訓練実施責任者	職	氏名 ●● ●●	
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	名	☐ 避難に要した時間
	☐ 避難先や避難経路の安全性		
	その他		
訓練によって確認された課題とその改善方法等	地震発生想定時、机の下の荷物で入れない人がいたため、整理整頓を行う必要あり。		
訓練記録作成者	職	氏名 ●● ●●	

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

課題②：業務時間内に行うのが難しい

効果的な対応策

- ・ 散歩で避難経路を確認
- ・ 数回に分けて1回の時間を短く
- ・ 発災時のシナリオを系列施設で共有

北海道釧路市 生活介護事業所SAKURA

施設区分
社会福祉施設

利用者人数
10～19人

津波基準水位
1～2m

津波到達時間
30～60分

施設利用者
障害者

避難に
要する時間
10分以内

毎日のお散歩で避難ルートを歩くことで、日常のなかで避難経路を確認しています！

日常から避難経路に慣れておくことで発災時にも落ち着いて対処することができます。

発災時には「地震だよ」ではなく、「お散歩に行くよ」と声を掛けることでスムーズに避難できています！



施設の管理者



お散歩の中で避難経路確認



お散歩の中で避難経路確認

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	SAKURA				
実施日時	2024年 8月 22日 12時 45分 から 13時 30分 まで				
実施場所	当施設～●●高校				
想定災害 (該当する口にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)				
訓練種類・内容 (該当する口にチェックをする。)	☐ 図上訓練		☐ 情報伝達訓練		
	☒ 避難経路の確認訓練		☒ 立退き避難訓練		
	☐ 垂直避難訓練		☐ 持ち出し品の確認訓練		
	☐ その他 ()				
	(訓練内容を適時自由記載)				
震度5強の地震発生想定。津波警報が発令されたため災害計画に基づき、●●高校へ徒歩で避難した。					
替役の散歩兼訓練を報告！					
訓練参加者・参加人数	従業者（全員・一部）		10名（うちパート・アルバイト 名）		
	施設利用者（全員・一部）		10名（うち通所者 名）		
	その他訓練参加者：施設利用者の家族		名		
	地域の協力者		名		
その他		名			
訓練実施責任者	職 氏名 ●● ●●				
確認事項	☐ 避難支援に要した人数		名	☐ 避難に要した時間	時間 10分
	☐ 避難先や避難経路の安全性				
	その他				
訓練によって確認された課題とその改善方法等	工夫 パニックにならないように、声掛けを行いスムーズに避難することができた。				
訓練記録作成者	職 氏名 ●● ●●				

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

効果的な対応策：散歩で避難経路を確認！

北海道釧路市

あいこく
愛国フレンドようちえん

施設区分
学校

利用者人数
50～99人

津波基準水位
1～2m

津波到達時間
30～60分

施設利用者
幼児

避難に
要する時間
20分以内

お散歩の中で子供たちが楽しみながら、日常的に避難経路を確認しています！

園児が避難経路に慣れておくことで発災時にもスムーズな避難ができています。

3歳児未満クラスは“お散歩カー”を用いて散歩しています。



施設外観



お散歩カー乗り込み



お散歩の中で避難経路確認

訓練実施結果報告書（学校用）				
施設名	愛国フレンドようちえん			
実施日時	2024年 1月 16日 10時 00分 から 11時 30分 まで			
実施場所	園内～釧路公立大学			
想定災害 (該当する口にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)			
訓練種類・内容 (該当する口にチェックをする。)	☒ 図上訓練	☒ 情報伝達訓練		
	☒ 避難経路の確認訓練	☒ 立退き避難訓練		
	☒ 垂直避難訓練	☐ 持ち出し品の確認訓練		
	☐ その他 ()			
(訓練内容を適時自由記載) 園内から徒歩で釧路公立大学の敷地まで行き施設3階まで上がる避難訓練を行った。				
日々のお散歩と一緒に実施！				
訓練参加者・参加人数	教職員（全員・一部）	25名		
	児童・生徒等（全員・一部）	113名		
	その他訓練参加者：保護者等	名		
	地域住民等	名		
その他 () 名				
訓練実施責任者	職 氏名 ●● ●●			
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	名	☒ 避難に要した時間	時間 20分
	☒ 避難先や避難経路の安全性			
訓練によって確認された課題とその改善方法等	その他			
	訓練時、靴を履くの間に手間取ってしまうため、靴の置き場を確認し、どの園児の靴か確認しておく。			
訓練記録作成者	職 氏名 ●● ●●			

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

徳島県徳島市 徳島市立住吉・城東児童館

施設区分
社会福祉施設

利用者人数
20～49人

津波基準水位
2～3m

津波到達時間
30～60分

施設利用者
児童

避難に
要する時間
30分以内

別日に分けて複数回の避難訓練を実施しています！
児童館は自由来館施設であり、様々な児童が来ます。
児童によっては集中力が続かなかったり、計画に沿った避難訓練の実施が難しいことがあります。
1日目に地震対策で屋外に一次避難、別日に津波対策で屋内に二次避難と分割して実施することで、集中力を保って訓練を実施できています。



施設で働く先生がた



発災時集合場所



ヘルメット常備(サイズ毎に色分け)

訓練実施結果報告書（様式例）				
施設名	徳島市立住吉・城東児童館			
実施日時	2024年 8月 9日 15時 00分 から 15時 30分 まで			
実施場所	児童館、コミュニティセンター駐車場			
想定災害 (該当する口にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)			
訓練種類・内容 (該当する口にチェックをする。)	☐ 図上訓練		☐ 情報伝達訓練	
	☒ 避難経路の確認訓練		☐ 立退き避難訓練	
	☐ 垂直避難訓練		☐ 持ち出し品の確認訓練	
	☐ その他 ()			
	(訓練内容を適時自由記載) ・前日の夕方に発生した日向灘地震時の児童館の様子を話す。 ・館内ヘルメットの場所、サイズや被り方、各部屋の安全な場所、避難時集合場所への集まり方、避難方法を確認する。 ・児童館から隣接するコミュニティセンター駐車場まで避難する。			
訓練参加者・参加人数	従業者(全員・一部) 3名 (うちパート・アルバイト)		名	
	施設利用者(全員・一部) 15名 (うち通所者)		15名	
	その他訓練参加者：施設利用者の家族		名	
	地域の協力者		名	
	その他		名	
訓練実施責任者	職	氏名 ●● ●●		
確認事項	☐ 避難支援に要した人数		名	☐ 避難に要した時間
	☐ 避難先や避難経路の安全性		時間	10分
	その他 避難訓練の実施を周知していなかったため、急な訓練に戸惑う児童もいた。			
訓練によって確認された課題とその改善方法等	・ヘルメットのサイズが見分けにくい。 → 工夫 大小のサイズごとにテープで色分けして、すぐに分かるように改善した。 ・校区外の子は児童館周辺に土地勘もなく、避難場所も知らない子が多い。 → 工夫 避難時集合場所や避難場所についてより分かりやすく目につくように掲示を見直した。 ・児童館は自由に遊ぶところなので、学校のように同じ時間に全員で活動する機会が少なく、遊びを中断してみんなで一斉に避難するという訓練方法にハードルを感じやすい。 また、避難できない場合の想定も必要。 → 自由来館施設ならではの訓練方法を考える。			
	訓練記録作成者	職	氏名 ●● ●●	※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

効果的な対応策：発災時のシナリオを複数施設で共有！

徳島県徳島市 けんしょうえん 健祥苑・金太郎

施設区分
社会福祉施設

利用者人数
17～18人

津波基準水位
2～3m

津波到達時間
30～60分

施設利用者
高齢者

避難に
要する時間
40分以内

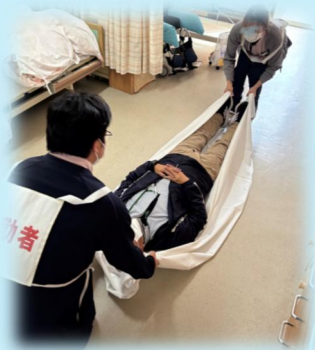
発災時のシナリオを本部で作成し、系列の複数施設に共有することで、合理的に避難訓練を実施しています！
施設が複数隣接している場合、発災時の浸水時間等、避難までの猶予時間は施設で共通しています。発災のシナリオを施設間で共有することで、避難訓練の実施準備や避難訓練が簡単になりスムーズに実施できます。
洪水、高潮、津波、地震、火災のシナリオを共有し、いずれもスムーズに訓練可能です。



施設外観



避難訓練実施



避難訓練実施

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	障害者支援施設 健祥苑			
実施日時	2024年 5月 20日 13時 30分 から 15時 30分 まで			
実施場所	当施設			
想定災害 (該当する□にチェックをする。)	☒ 洪水 ☐ 土砂災害 ☒ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震・火災) 工夫			
訓練種類・内容 (該当する□にチェックをする。)	☐ 図上訓練	☒ 情報伝達訓練		
	☒ 避難経路の確認訓練	☐ 立退き避難訓練		
	☒ 垂直避難訓練	☒ 持ち出し品の確認訓練		
	☐ その他 () (訓練内容を適時自由記載) シナリオを系列施設で共有！ 南海トラフを震源とする大規模地震発生時に伴う火災や津波発生を想定。地震発生時の自身の安全確保後、揺れが治まった後の要配慮者の安否確認、火災発生に伴う初動の対応や情報伝達・要配慮者の避難誘導、津波発生時の津波避難訓練を実施した。また、台風等の低気圧に伴う洪水・高潮発生を想定し、要配慮者の避難誘導を実施した。			
訓練参加者・参加人数	従業員（全員・一部） 30名（うちパート・アルバイト 名） 施設利用者（全員・一部） 70名（うち通所者 名） その他訓練参加者：施設利用者の家族 名 地域の協力者 名 その他 名			
訓練実施責任者	職 氏名 ●● ●●			
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	名	☐ 避難に要した時間	時間 40分
	☐ 避難先や避難経路の安全性 その他			
訓練によって確認された課題とその改善方法等	火災発生訓練では、初期消火の際に消火器を持っていくことや、出火部屋の扉を閉めることの初動の対応が慌ててしまいできなかった。次回の訓練では初動の対応ができるようにする。津波、高潮、洪水避難訓練は、垂直避難を実施。要配慮者が自力避難困難なため、 <u>情報収集により事前に避難できる高潮や洪水は、災害前に避難しておく。</u> 工夫			
訓練記録作成者	職 氏名 ●● ●●			

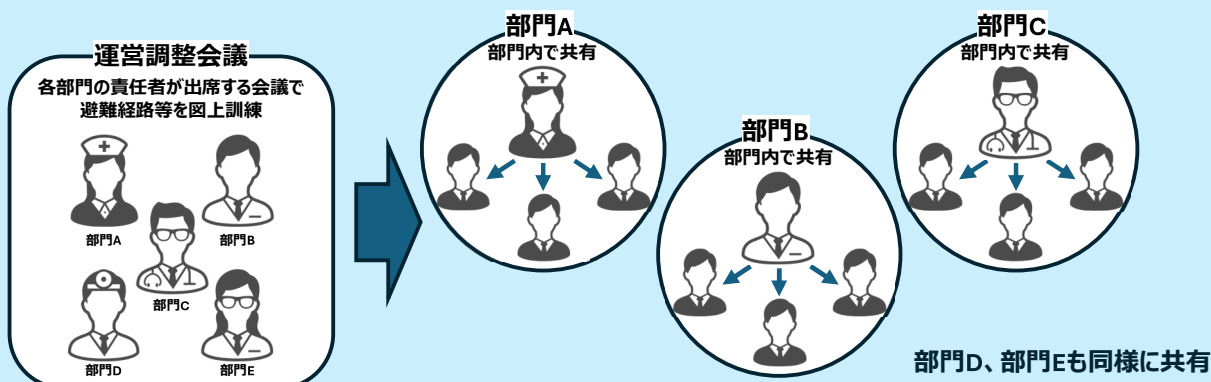
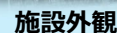
※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

課題③：スタッフの人手不足

効果的な対応策

- ・ 参加可能な組織単位で訓練実施
- ・ 施設間で参加可能な人を出し合って訓練実施

病院という特性上、施設で働く職員全員を集めて避難訓練を実施することが困難であるため、責任者が集まる既存の会議の場を用いて図上訓練を実施しています。



避難に要する時間

[illegible]

国土交通省様式の場合の記入例

徳島県徳島市 ケアハウスとみだ

施設区分
社会福祉施設

利用者人数
50～99人

津波基準水位
2～3m

津波到達時間
30～60分

施設利用者
高齢者

避難に
要する時間
—

同一建物内の施設と人を出し合って、最小限の参加者で図上訓練を実施しています！
福祉施設・介護保険事業所という特性上、施設で働く職員全員を集めて避難訓練を実施することが困難です。施設ごとに参加できる人が発災時の動きや避難経路の導線、連携について図上訓練を実施し、通常業務と平行して避難訓練が可能です。



防災対策担当者



図上訓練実施



その他の工夫

ハザードマップ掲示

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	ケアハウスとみだ			
実施日時	2024年 12月 4日 13時 30分 から 14時 30分 まで			
実施場所	当施設			
想定災害 (該当する□にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)			
訓練種類・内容 (該当する□にチェックをする。)	☒ 図上訓練		☐ 情報伝達訓練	
	☐ 避難経路の確認訓練		☐ 立退き避難訓練	
	☐ 垂直避難訓練		☐ 持ち出し品の確認訓練	
	☐ その他 ()			
	(訓練内容を適時自由記載) 系列施設と連携して図上訓練を実施 地震発生後 41 分で津波が到達するという想定のもと図上訓練を実施。 グループ施設小規模多機能とみだと合同訓練を実施、避難通路の確認、施設の立地上のリスク、施設類の確認、対策組織の整備、安否確認を行った。			
訓練参加者・参加人数	従業者 (全員・一部) 10 名 (うちパート・アルバイト 名)			
	施設利用者 (全員・一部) 名 (うち通所者 名)			
	その他訓練参加者：施設利用者の家族 名 地域の協力者 名 その他 名			
訓練実施責任者	職 氏名 ●● ●●			
確認事項	☐ 避難支援に要した人数 名		☐ 避難に要した時間 時間 分	
	☐ 避難先や避難経路の安全性			
	その他			
訓練によって確認された課題とその改善方法等				
訓練記録作成者	職 氏名 ●● ●●			

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

課題④：訓練の方法がわからない

効果的な対応策

- ・ 行政に指導を求め訓練実施

はくじかい

大分県別府市 博慈会 内田病院

施設区分
医療施設

利用者人数
150～299人

津波基準水位
2～3m

津波到達時間
60～90分

施設利用者
患者

避難に
要する時間
90分以内

他の災害拠点病院や市の防災危機管理課に相談、避難訓練の計画を作成、指導を頂いて避難訓練を実施しています！

病院を利用する在宅介護の患者さまを含む、包括的な訓練の実施に悩んでいました。市の専門家の指導により、今では地域の方をカバーする避難確保計画ができています。



施設外観



訓練状況

BCPにおいても病院だけでなく、介護部門と連携することで、地域の方をカバーする計画を立てています！

訓練実施結果報告書（様式例）				
施設名	医療法人 博慈会 内田病院			
実施日時	2023 年 9 月 30 日 8 時 30 分 から 12 時 00 分 まで			
実施場所	内田病院内			
想定災害 (該当する口にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)			
訓練種類・内容 (該当する口にチェックをする。)	☐ 図上訓練		☒ 情報伝達訓練	
	☒ 避難経路の確認訓練		☐ 避難経路の確認訓練	
	☒ 垂直避難訓練		☒ 垂直避難訓練	
	☐ その他 ()			
	(訓練内容を適時自由記載)			
訓練参加者・参加人数	南海トラフ地震が発生し、津波が来ることを想定し訓練を実施。 地震発生後、トランシーバーにて情報伝達訓練を実施、その後垂直避難訓練とトリアージ訓練を行った。 トリアージについてもアドバイスももらっています！			
	職員（全員・一部）	100 名		
	患者等（全員・一部）	50 名		
	その他訓練参加者：消防団等	40 名		
	地域の協力者	40 名		
その他	名			
訓練実施責任者	職	氏名	●● ●●	
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	100 名	☐ 避難に要した時間	時間 90 分
	☐ 避難先や避難経路の安全性			
	その他			
訓練によって確認された課題とその改善方法等	工夫 今回の訓練を実施し、<u>各部门から 54 の課題点が提出された</u>。今後は BCP 委員会にて各部门と協議を行い、改善方法を検討する。			
訓練記録作成者	職	氏名	●● ●●	

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

課題⑤：訓練の必要性を認識していなかった

解決策（行政向け）

- ・ 行政による助言

【施設①】愛知県 名古屋市

- | | |
|--------------|---------------------|
| ●施設区分：社会福祉施設 | ●施設利用者：高齢者 |
| ●利用者数：20～49人 | ●訓練時間：45～59分 |
| ●基準水位：0.3m | ●実施内容：図上訓練、備品等の確認訓練 |
| ●津波到達時間：102分 | |

●避難訓練を始めたきっかけ

市より運営指導の際に津波避難訓練が実施されていないことを指摘され、訓練を始めた

【施設②】愛媛県 西条市

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ●施設区分：社会福祉施設 | ●施設利用者：障害者 |
| ●利用者数：10人未満 | ●訓練時間：15～29分 |
| ●基準水位：－ | ●実施内容：実動訓練、避難経路等の確認訓練 |
| ●津波到達時間：－ | |

グループ系列の施設事業者が行政より指摘を受けたため、当施設でも避難訓練を始めた

【施設③】愛知県 名古屋市

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ●施設区分：社会福祉施設 | ●訓練時間：5～9分 |
| ●利用者数：10人未満 | ●実施内容：実動訓練、避難経路等の確認訓練 |
| ●基準水位：3.0m | |
| ●津波到達時間：－ | |

市の提供する情報を参照して危機感をもった

【施設④】愛媛県 西条市

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ●施設区分：社会福祉施設 | ●施設利用者：障害者 |
| ●利用者数：10～19人 | ●訓練時間：15～29分 |
| ●基準水位：－ | ●実施内容：実動訓練、避難経路等の確認訓練 |
| ●津波到達時間：－ | |

保護者から要望があったことから訓練を始めた

【施設⑤】山口県 下松市

- | | |
|----------------|-----------------------|
| ●施設区分：医療施設 | ●施設利用者：病人・けが人 |
| ●利用者数：100～149人 | ●訓練時間：80分 |
| ●基準水位：3.5m | ●実施内容：図上訓練、避難経路等の確認訓練 |
| ●津波到達時間：120分 | |

施設自ら南海トラフ地震に危機感を持ち訓練を始めた

●都道府県・市町村に求める対応策

未実施の施設に対して定期的な助言・勧告を行う必要がある！

●都道府県・市町村に求める対応策

水害リスクの周知をする必要がある！

避難訓練を行ってもらうには、行政による継続的な助言が重要です！

避難の実効性を確保するための事例

徳島県徳島市 徳島県立徳島科学技術高等学校

施設区分
学校

利用者人数
500人以上

津波基準水位
0～1m

津波到達時間
30～60分

施設利用者
高校生

避難に
要する時間
30分以内

地域と連携して、大規模な避難訓練を実施しています！
地域の住民や施設に本校から働きかけ、想定される人員規模で避難訓練を実施しています。
連携する保育園・幼稚園の園児の方と炊き出し訓練、引き渡し訓練も実施します。大規模な避難訓練の実施により、本校生徒の防災意識も高まっています。



先生がた



炊き出し訓練

合同訓練(園児への避難支援)

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	徳島県立徳島科学技術高等学校			
実施日時	2024年 12月 20日 10時 00分 から 10時 50分 まで			
実施場所	徳島県立徳島科学技術高等学校			
想定災害 (該当する□にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)			
訓練種類・内容 (該当する□にチェックをする。)	☐ 図上訓練	☒ 情報伝達訓練		
	☒ 避難経路の確認訓練	☐ 立退き避難訓練		
	☒ 垂直避難訓練	☐ 持ち出し品の確認訓練		
	☐ その他 ()			
(訓練内容を適時自由記載) 東南海地震により津波が発生する想定で避難訓練を実施。地域住民の方、●●保育園、●●幼稚園と合同で実施。 <u>ステージ1：全生徒が校舎5階に避難</u> <u>ステージ2：地域住民・園児の受け入れ、生徒が誘導する。</u>				
訓練参加者・参加人数	教職員 (<u>全員</u> 一部)	100名	実際規模の 人数で実施	
	児童・生徒等 (<u>全員</u> 一部)	900名		
	その他訓練参加者：保護者等	名		
	地域住民等	20名		
	その他 (保育園・幼稚園)	300名		
訓練実施責任者	職	氏名 ●● ●●		
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	名	☐ 避難に要した時間	時間 30分
	☐ 避難先や避難経路の安全性			
その他				
訓練によって確認された課題とその改善方法等	・校内の階段が中央と東側にしかないため、スムーズな避難誘導が難しい。 ・学校に布団などの備蓄がない。			
訓練記録作成者	職	氏名 ●● ●●		

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

山口県宇部市 宇部市立藤山中学校

施設区分
学校

利用者人数
約300人

津波基準水位
1～2m

津波到達時間
0～30分

施設利用者
中学生

避難に
要する時間
30分以内

小学校、中学校、高校、福祉施設、自主防災会が合同の津波避難訓練に参加！1000人規模での訓練となりましたが、所定時間内に訓練を実施できました。
校長や代表者同士の電話で日程を調整。他の施設と重複しないように避難経路を設定して訓練を実施しています。



教頭



避難先の小学校



近隣の小学校、高校、福祉施設、自主防災会と合同津波避難訓練

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	宇部市立藤山中学校		
実施日時	2024年 9月 27日 13時 00分 から 15時 00分 まで		
実施場所	藤山中学校～藤山小学校		
想定災害 (該当する□にチェックをする。)	☒ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)		
訓練種類・内容 (該当する□にチェックをする。)	☐ 図上訓練	☒ 情報伝達訓練	
	☒ 避難経路の確認訓練	☒ 立退き避難訓練	
	☐ 垂直避難訓練	☐ 持ち出し品の確認訓練	
	☐ その他 ()		
訓練参加者 ・参加人数	(訓練内容を適時自由記載) 南海トラフ地震発生後、津波警報が発令され、厚東川堤防決壊想定。中学校から避難場所に指定されている藤山小学校へ徒歩で避難。		
	実規模の人数が参加		
	教職員 (全員・一部)	30名	
	児童・生徒等 (全員・一部)	310名	
	その他訓練参加者：保護者等	名	
	地域住民等	655名	
	その他 ()	名	
訓練実施責任者	職	氏名 ●● ●●	
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	名	☐ 避難に要した時間
	☐ 避難先や避難経路の安全性	時間 25分	
訓練によって確認された課題とその改善方法等	小学校と中学校で避難終了時間のタイムラグが生じた(先に避難した生徒を長時間待機させてしまう)。学校同士で連絡方法(トランシーバー等)を確立させておく。		
訓練記録作成者	職	氏名 ●● ●●	

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

静岡県静岡市 静岡市立清水第三中学校

施設区分
学校

利用者人数
100～149人

津波基準水位
0～1m

津波到達時間
0～30分

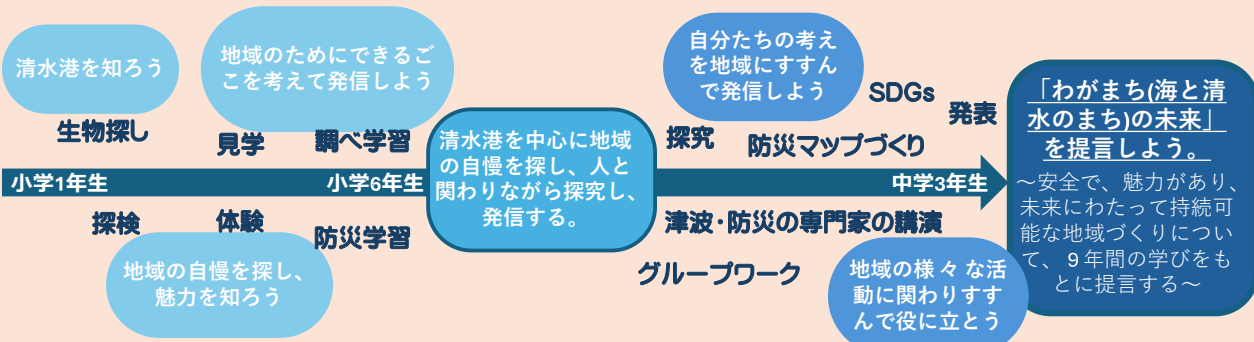
施設利用者
中学生

避難に
要する時間
10分以内

学区の清水小学校と連携して「清水の防災と海洋文化」について9年間かけて学ぶ、小中一貫の学習カリキュラムを実施しています！
清水港等での学習等、生徒が主体的に学びます。中学3年生では集大成としてこれまでの取組を発表します。
培われた防災意識は避難訓練のスムーズさや真剣さに現れます。



教頭



「海と防災の視点から清水のまちづくりを考える清水小・三中学びプラン」9年間の学習の目標とアクション

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	静岡市立清水第三中学校		
実施日時	2025年 4月 11日 8時 40分 から 9時 15分 まで		
実施場所	静岡市立清水第三中学校		
想定災害 (該当する□にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)		
訓練種類・内容 (該当する□にチェックをする。)	☐ 図上訓練	☐ 情報伝達訓練	
	☐ 避難経路の確認訓練	☐ 立退き避難訓練	
	☒ 垂直避難訓練	☐ 持ち出し品の確認訓練	
	☐ その他 ()		
	(訓練内容を適時自由記載) ・北校舎3階まで垂直避難。 ・北校舎3階でライフジャケット着用訓練。		
訓練参加者 ・参加人数	教職員 (<u>全員</u>) 一部)	15名	
	児童・生徒等 (<u>全員</u>) 一部)	105名	
	その他訓練参加者：保護者等	名	
	地域住民等	名	
	その他 ()	名	
訓練実施責任者	職	氏名 ●● ●●	
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	名	☐ 避難に要した時間
	☐ 避難先や避難経路の安全性	時間 3分	
	その他		
訓練によって確認された課題とその改善方法等	ライフジャケット着用訓練時、体が小さい学生はライフジャケットが脱げてしまうため、小さいサイズを購入した。		
訓練記録作成者	職	氏名 ●● ●●	

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

高知県黒潮町 黒潮町立佐賀小学校

施設区分
学校

利用者人数
0～100人

津波基準水位
15m以上

津波到達時間
0～30分

施設利用者
小学生

避難に
要する時間
10分以内

清掃中、下校中等の様々な場面を想定した避難訓練の他に、普段からの防災教育にも力を入れています！

「自分の命は自分で守る」「自分の命を守る力をつける」を基本として、防災教育しています。
夏休みには「家族防災会議」という、ご家族と防災に関してお話する宿題を出しています。避難訓練では、近隣中学校と連携し、裏山まで避難します。



学校外観



訓練風景



家族防災会議

家族防災会議 チェックリスト

各避難経路の確認
必ず確認する

① 上にある場所
② 下にある場所
③ その他

① ② ③

家族防災会議の宿題

家族防災会議の目的は、家族で話し合い、災害発生時の対応を事前に決めておくことです。家族防災会議は、家族全員で参加し、家族防災会議の目的を達成するために必要な事項を確認し、家族防災会議の成果を家族全員で共有することです。

家族防災会議の目的は、家族で話し合い、災害発生時の対応を事前に決めておくことです。家族防災会議は、家族全員で参加し、家族防災会議の目的を達成するために必要な事項を確認し、家族防災会議の成果を家族全員で共有することです。

家族防災会議の目的は、家族で話し合い、災害発生時の対応を事前に決めておくことです。家族防災会議は、家族全員で参加し、家族防災会議の目的を達成するために必要な事項を確認し、家族防災会議の成果を家族全員で共有することです。

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	黒潮町立佐賀小学校			
実施日時	2025年 6月 3日 13時 20分 から 14時 00分 まで			
実施場所	黒潮町立佐賀小学校→大和田山避難広場→大和田山避難所（二次避難所）			
想定災害 （該当する□にチェックをする。）	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害（ 地震 ）			
訓練種類・内容 （該当する□にチェックをする。）	☐ 図上訓練	☒ 情報伝達訓練		
	☒ 避難経路の確認訓練	☒ 立退き避難訓練		
	☐ 垂直避難訓練	☐ 持ち出し品の確認訓練		
	☐ その他（ ）			
訓練参加者 ・参加人数	（訓練内容を適時自由記載）様々な場面に対応できるように訓練！ ・掃除中に予告なしに校内放送にて地震発生→避難指令 ・校舎から出て避難経路で大和田山避難広場へ避難する。 ・大津波を想定し、二次避難所である大和田山避難所まで避難する。			
	教職員（全員・一部） 15名 児童・生徒等（全員・一部） 60名 その他訓練参加者：保護者等 名 地域住民等 名 その他（ ） 名			
訓練実施責任者	職 氏名 ●● ●●			
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	名	☐ 避難に要した時間	時間 6分
	☐ 避難先や避難経路の安全性			
訓練によって確認された課題とその改善方法等	その他			
訓練記録作成者	職 氏名 ●● ●●			

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

徳島県徳島市 徳島文理大学附属幼稚園

施設区分
学校

利用者人数
50～99人

津波基準水位
2～3m

津波到達時間
30～60分

施設利用者
幼児

避難に
要する時間
30分以内

避難先である附属機関の徳島文理大学と連携して避難訓練を実施しています！
徳島文理大学の教授と有志の学生に援助をしていただき、道路横断時の安全確保や階段を登る際の補助をしてもらっています。

有志の学生は、ボランティアの回数を重ねる事により単位が取得できる制度があり、継続的に実施できています。



幼稚園外観



大学生ボランティアと避難訓練



避難先(徳島文理大学9号館) 徳島文理大学教授

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	徳島文理大学附属幼稚園		
実施日時	2024年 10月 11日 10時 20分 から 11時 20分 まで		
実施場所	各保育室→園庭→大学 9号館 6階		
想定災害 (該当する□にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)		
訓練種類・内容 (該当する□にチェックをする。)	☐ 図上訓練	☒ 情報伝達訓練	
	☒ 避難経路の確認訓練	☒ 立退き避難訓練	
	☒ 垂直避難訓練	☐ 持ち出し品の確認訓練	
	☐ その他 ()		
	(訓練内容を適時自由記載) 保育中に地震→津波発生想定。1次避難：机の下方、2次避難：園庭、3次避難：大学 9号館 4階以上。 <u>ボランティアの大学生に園児の誘導を手伝ってもらい、9号館まで徒歩で移動して建物階段を登り4階以上の教室まで避難する。</u> 有志による避難援助！		
訓練参加者・参加人数	教職員 (全員 一部)	10名	
	児童・生徒等 (全員 一部) その他訓練参加者：保護者等 地域住民等 その他 (大学生ボランティア)	65名 名 名 10名	
訓練実施責任者	職	氏名 ●● ●●	
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	10名	☐ 避難に要した時間
	☐ 避難先や避難経路の安全性	時間 30分	
訓練によって確認された課題とその改善方法等	事前学習の重要性→適宜話し合いの場をもつこと。 教師間の連携、伝達、支援の仕方、役割分担→事前に十分話し合いをしておくこと。 適切な情報収集の仕方を確保すること、情報伝達の十分な連携。 避難経路の確認→災害の規模、内容によって常にシミュレーションをしておくこと。 備蓄品の確認→適宜確認すること		
	工夫		
訓練記録作成者	職	氏名 ●● ●●	

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

効果的な取組：近隣の民間施設と連携して、実際の避難に則した訓練を実施！

高知県高知市 ときわ 社会福祉法人常盤会 常盤保育園

施設区分
社会福祉施設

利用者人数
50～99人

津波基準水位
2～3m

津波到達時間
40分

施設利用者
幼児

避難に
要する時間
10分以内

隣接するビジネスホテル(避難ビル)と連携して、訓練時から避難させてもらっています。10分かからずに非常階段を上がる事ができ、スムーズな避難ができています。避難訓練後には必ず反省・見直し点をノートにまとめ、後から見返せるようにしています。職員間で共有し引き継いでいくことで、防災のノウハウを継承しています！！

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	社会福祉法人常盤会 常盤保育園		
実施日時	2024年 11月 13日 10時 05分 から 10時 40分 まで		
実施場所	園内 ●●●●ホテル 近隣民間施設と連携		
想定災害 (該当する□にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☐ その他の災害 (地震)		
訓練種類・内容 (該当する□にチェックをする。)	☒ 図上訓練	☒ 情報伝達訓練	
	☒ 避難経路の確認訓練	☒ 立退き避難訓練	
	☒ 垂直避難訓練	☒ 持ち出し品の確認訓練	
	☐ その他 ()		
訓練参加者・参加人数	(訓練内容を適時自由記載) 災害時に必要な物資を再検討し、購入する。 <u>避難倉庫の物資をホテルに運ぶことを職員で共有する。</u> 工夫		
	従業者(全員・一部)	15名(うちパート・アルバイト	名)
	施設利用者(全員・一部)	60名(うち通所者	名)
訓練実施責任者	その他訓練参加者：施設利用者の家族 名		
	地域の協力者 名		
	その他 5名		
確認事項	職	氏名 ●● ●●	
	☐ 避難支援に要した人数	名	☐ 避難に要した時間 時間 7分
	☐ 避難先や避難経路の安全性		
訓練によって確認された課題とその改善方法等	その他		
	・園内放送を聞くとすぐに机の下に隠れているが、以前からやっていた「だんご虫」のポーズの子供が多かったため、低い姿勢で周囲を見渡せる「カエル」のポーズになることを声掛けした。これからも身につくようにポーズ練習をしていきたい。		
	・乳児用の避難車を用意できていなかったため、職員間で連絡調整していく。 工夫		
訓練記録作成者	職	氏名 ●● ●●	

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

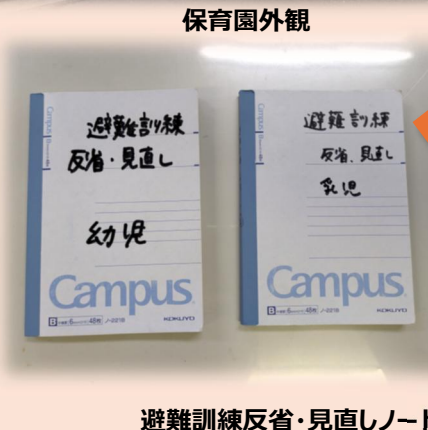


隣接ホテル

常盤保育園



避難階段



避難訓練反省・見直しノート

年齢層毎にノートを作成し、改善・対応策を次の訓練で活かすようにしています！
＜例＞
避難通路場所のスペースが確保できるよう、避難袋の置き方等を見直した。

高知県高知市 ちより保育園

施設区分
社会福祉施設

利用者人数
50～99人

津波基準水位
2～4m

津波到達時間
30分程度

施設利用者
幼児

避難に
要する時間
25分程度

親子遠足のイベントを利用して、親子避難訓練を実施しています！
園内での避難訓練では様々な想定で、事前告知無しの訓練を実施し、園児たちとも“もし今、地震が起きたらどうするか”を話すことで日常生活の中で意識を高めるようにしています。



保育園外観



保育園

保育園から避難先までの道のり



避難訓練で連携している最寄りの避難ビル

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	高知市ちより保育園		
実施日時	2024年 2月 8日 14時 45分 から 14時 56分 まで		
実施場所	高知市ちより保育園		
想定災害 (該当する口にチェックをする。)	☒ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (火災)		
訓練種類・内容 (該当する口にチェックをする。)	☐ 図上訓練	☒ 情報伝達訓練	
	☒ 避難経路の確認訓練	☒ 立退き避難訓練	
	☐ 垂直避難訓練	☒ 持ち出し品の確認訓練	
	☐ その他 ()		
(訓練内容を適時自由記載)			
・ 昼寝時間中、震度7の地震発生で緊急地震速報発令想定。 ・ 調理室にて小規模火災発生。消火後、津波発生のため、●●●●へ避難する。			
工夫			
詳細な場面を想定して実施			
訓練参加者・参加人数	従業者 (全員・一部)	15名 (うちパート・アルバイト	名)
	施設利用者 (全員・一部)	95名 (うち通所者	名)
	その他訓練参加者：施設利用者の家族 名		
	地域の協力者 名		
その他 名			
訓練実施責任者	職	氏名 ●● ●●	
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	名	☐ 避難に要した時間
	時間 11分		
	☐ 避難先や避難経路の安全性		
その他			
工夫			
具体的な改善策の検討！			
訓練によって確認された課題とその改善方法等	・ 警報が聞こえてから揺れるまでの間に園庭まで逃げられたクラスもあったが、乳児など園庭までは間に合わないクラスもあった。揺れの後、避難する際には部屋の中にがれきが沢山あるため、何を使って逃げるのか(絨毯、布団、机等)色々な想定をしておくことが大切である。 ・ 寒い時期にパジャマで避難となると寒いので、できれば上着を持って避難できれば良いが、何を優先すべきかを考えて避難していきたい。		
訓練記録作成者	職	氏名 ●● ●●	

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

徳島県徳島市 徳島市立住吉・城東児童館

施設区分
社会福祉施設

利用者人数
20～49人以上

津波基準水位
2～3m

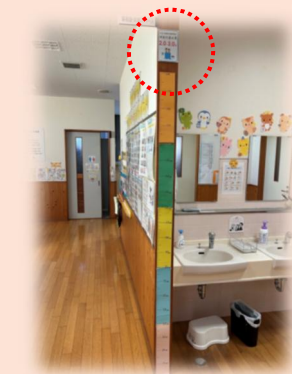
津波到達時間
30～60分

施設利用者
児童

避難に
要する時間
—

日常時と非常時の垣根をなくすフェーズフリーを意識して、普段の生活から防災を取り入れています！
「いつももしもメモ」を用いた、発災時のシーンに対する日頃の対策を講じる訓練により、防災意識を高めています。
また、児童の目のつく高さにヘルメットを設置したり、安全に関する掲示、身長計に浸水想定の高さを示すなど、直感的に分かりやすい取組をしています。

身長計上部に
津波浸水深を掲示



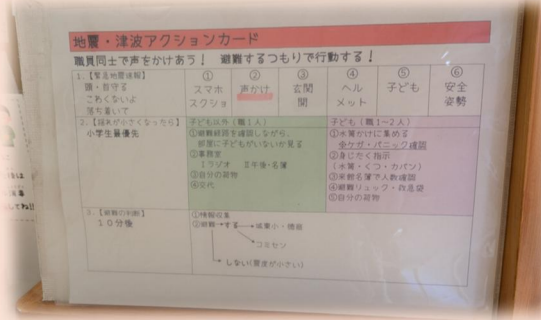
浸水深の見える化



施設で働く先生がた



子供の目につく高さにヘルメットを設置



地震・津波アクションカードの掲示

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	徳島市立住吉・城東児童館			
実施日時	2024年 5月 21日 13時 00分 から 15時 00分 まで			
実施場所	児童館、コミセン駐車場			
想定災害 (該当する口にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)			
訓練種類・内容 (該当する口にチェックをする。)	☒ 図上訓練	☐ 情報伝達訓練		
	☒ 避難経路の確認訓練	☐ 立退き避難訓練		
	☐ 垂直避難訓練	☐ 持ち出し品の確認訓練		
	☐ その他 ()			
	(訓練内容を適時自由記載) 津波の有無を想定した地震(震度7)が起きた時の「いつももしもメモ」の作成を行う。 ※「いつももしもメモ」とは フェーズフリーな図上訓練 「もしも」の災害を詳細に想定し、実際に起こりうる状況を具体的に思い浮かべながら、自分自身や職員全員の行動を頭の中でシミュレーションしてメモをする。書き出された危険や不安を減らすために「いつも」の日常の中で何をしておくとよいか考える訓練。			
訓練参加者・参加人数	従業者 (全員・一部) 3名 (うちパート・アルバイト 名) 施設利用者 (全員・一部) 名 (うち通所者 名) その他訓練参加者：施設利用者の家族 名 地域の協力者 名 その他 名			
	訓練実施責任者 職 氏名 ●● ●●			
確認事項	☐ 避難支援に要した人数	名	☐ 避難に要した時間	時間 分
	☐ 避難先や避難経路の安全性 その他			
訓練によって確認された課題とその改善方法等	児童館を利用する乳幼児の保護者には、住吉・城東地区に転勤で引越してきた人や地区外に居住している人が多いため、土地勘がないという人が多い。また、気軽に話ができるママ友がいない方もいる。 <u>災害が起こる前から、それぞれの親子が必要とする情報を提供したい。</u> 工夫			
訓練記録作成者	職 氏名 ●● ●●			

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

徳島県徳島市 とみだ福社会 とみだの家

施設区分
社会福祉施設

利用者人数
0～50人

津波基準水位
2～3m

津波到達時間
30～60分

施設利用者
高齢者

避難に
要する時間
30分以内

地域と連携し、施設利用者の避難を手伝っていただいております！

施設の一室に地域防災会の倉庫(備蓄庫)を設けているので、発災時には地域の方が施設に来ます。その際に、施設利用者の避難を手伝っていただく事になっています。



防災対策担当者



訓練状況



倉庫と備蓄品

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	特養とみだの家		
実施日時	2024年 11月 28日 13時 00分 から 16時 00分 まで		
実施場所	当施設		
想定災害 (該当する□にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)		
訓練種類・内容 (該当する□にチェックをする。)	☒ 図上訓練	☒ 情報伝達訓練	
	☒ 避難経路の確認訓練	☐ 立退き避難訓練	
	☒ 垂直避難訓練	☐ 持ち出し品の確認訓練	
	☐ その他 () (訓練内容を適時自由記載) 1. 訓練の趣旨伝達と訓練方法の確認 2. 一時避難場所への避難 3. 車椅子、担架移動の訓練。		
訓練参加者・参加人数	従業者(全員・一部) 10名(うちパート・アルバイト 名) 施設利用者(全員・一部) 20名(うち通所者 名) その他訓練参加者: 施設利用者の家族 名		
	地域の協力者 5名 その他 5名 地域の方の援助		
訓練実施責任者	職 氏名 ●● ●●		
確認事項	☐ 避難支援に要した人数 名 ☐ 避難に要した時間 時間 30分		
	☐ 避難先や避難経路の安全性 その他		
訓練によって確認された課題とその改善方法等	地震発生から、被害の確認や津波に対する対策はよくできていた。訓練を重ね、避難をスムーズに実施できるようにしたい。 入居者移動の方法について、2人で抱えて移動するほうが効率的でよいと指摘があった。 <u>女性職員が主であるため、器具による力添えが不可欠である。</u> 寝たきりの方や、体が硬直しているかたは器具を使用したほうが安全で早く移動できることを理解してもらうよう働きかける。		
訓練記録作成者	職 氏名 ●● ●●		



※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

愛知県豊橋市 障害者支援施設シーサイド吉前

避難用スロープを設置することで、利用者の円滑な避難を促進し、避難に来る地域住民から支援を受ける仕組みづくりをしています！
車椅子利用者が多いことから、施設にスロープを設置しました。また、施設が津波避難ビルに指定されているので、発災時には地域住民が避難に来ます。その際に、車椅子利用者をスロープで避難階まで避難する手伝いをしてもらう関係性を築いています。



施設外観



避難用スロープ



避難訓練の様子

施設区分
社会福祉施設

利用者人数
50～99人

津波基準水位
2～3m

津波到達時間
60～90分

施設利用者
障害者

避難に
要する時間
50分以内

訓練実施結果報告書（様式例）

施設名	障害者支援施設 シーサイド吉前				
実施日時	2023年 6月 7日 13時 30分 から 14時 30分 まで				
実施場所	当施設				
想定災害 (該当する口にチェックをする。)	☐ 洪水 ☐ 土砂災害 ☐ 高潮 ☒ 津波 ☒ その他の災害 (地震)				
訓練種類・内容 (該当する口にチェックをする。)	☐ 図上訓練		☒ 情報伝達訓練		
	☒ 避難経路の確認訓練		☐ 立退き避難訓練		
	☒ 垂直避難訓練		☐ 持ち出し品の確認訓練		
	☐ その他 () (訓練内容を適時自由記載) 地震発生後、緊急放送により三河湾に大津波警報が発令される想定で訓練を行った。 <u>外側スロープを使用してシーサイド吉前の屋上まで避難後、点呼訓練実施。</u> 設置したスロープの活用を想定した避難訓練！				
訓練参加者・参加人数	従業者（全員・一部） 30名（うちパート・アルバイト 名）				
	施設利用者（全員・一部） 70名（うち通所者 名） その他訓練参加者：施設利用者の家族 名 地域の協力者 10名 その他 名				
訓練実施責任者	職 氏名 ●● ●●				
確認事項	☐ 避難支援に要した人数		名	☐ 避難に要した時間	時間 45分
	☐ 避難先や避難経路の安全性				
	その他				
訓練によって確認された課題とその改善方法等	・利用者の方々が職員の誘導に従い、落ち着いて避難できるように声掛けなどを行う。 ・洪水などの場合は、屋内のエレベーター使用で避難するが、停電の場合は1台のみの運転となるので、その場合も今後訓練を重ねていきたい。 工夫				
訓練記録作成者	職 氏名 ●● ●●				

※施設が実際に提出している報告書を基に、加筆し掲載

**令和7年 7月30日
カムチャツカ半島付近の地震による津波
に対する実際の避難について**

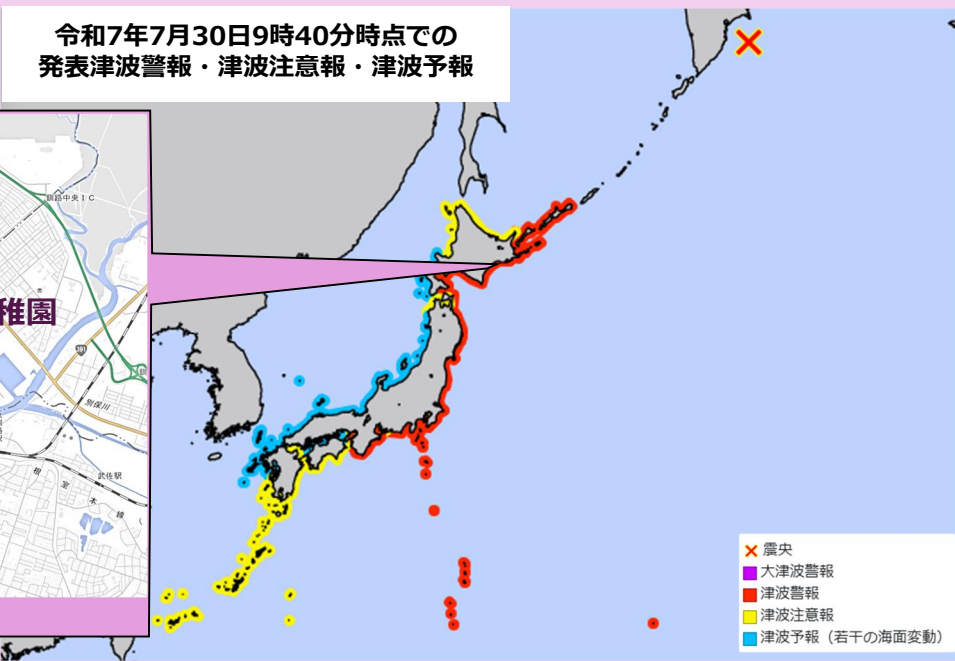
カムチャツカ半島付近の地震による津波の概要

今次津波の特徴

震源地：カムチャツカ半島付近
震源の深さ：不明
地震の規模：マグニチュード8.7
観測震度：震度2（釧路市）
到達津波最大波：0.4m（釧路市）

警報等発令時刻（釧路市）

- 08:25 地震発生
- 08:37 津波注意報発令
- 09:40 津波警報発令



●生活介護事業所SAKURA(11頁)における避難

近隣の高校に避難しました。
普段の散歩から避難経路を歩くようにしていたため、実際の避難でも「いつものお散歩に行くよ」と声を掛けることでパニックを避けてスムーズに避難することができました！

●愛国フレンド幼稚園(12頁)における避難タイムライン

